

ゆつくり着実に『極め人』たち 高みをめざす

「何でもかんでも手っ取り早く身につけたい」といったファストな風潮がはびこる現代社会。そのような流れに逆行するかのごとく、ゆつくりでいいから質の良い建築物を作り、地道だが着実に技術向上をめざす、今号ではそんな仲間たちを紹介しします。

港の岡啓輔さんは17年間 持続性ある建築物作る

JR田町駅西口から徒歩約10分、聖坂の途中の港区三田4丁目1に、見る者をくぎ付けにする鉄筋コンクリート造4階の建築がそびえ立っています。蟻鱗鳶ル（アリマストンビル）です。（なお、現在は周辺の再開発との関係から養生シートを張り、外観は見ることができません）。師走の12月2日に『げんせつ』編集部で訪問しました。



見る者をくぎ付けに。そびえ立つ蟻鱗鳶ル（アリマストンビル）

ていて、質が良くないと感じていました。日本の鉄筋コンクリートの寿命は35年にすぎず、他の先進国に比べても短い。35年でダメになるものを作っていたら、この国は貧しいままだろうと思えました。使い捨ての建築物を作っているのはよくありません。長くもたせるためには、コンクリートも生コン業者から買うのではなく自分で練らなければダメだと思いました」と、このビルを建てた動機を語るの

何か新しいデザインを考えるために現場での施工の経験が重要だろうと思いました。この土地を買ってから「作ることにコミットしないと見えてこないことがいっぱいある」と考え、2005年から作り始め、すでに17年ほど経過しています。ユニークなビルの名称は、詩人である友人のアドバイスを受けて命名したものです。



「ガウディのまねなんて無理」と語る岡さん（蟻鱗鳶ル内部にて）

「職人の復権」をめざして

ネット上では、岡さんは『三田のカウディ』などと紹介されていますが、「ガウディは聖職者で私のような俗物ではありませぬ。『魂をこの建築物に捧げています』という人です。僕も日々友人とウアアア言い合いながらやっていただけです。『三田のカウディ』というのは、かつてタモリさんがTV番組『タモリ倶楽部』の取材で来て、それでタモリさんが付けたものですよ。再開発との関係もあり、約1年半後には作り上げることになっています。『作ることの喜びを伝えたいですね。産業革命が起きて、需要が高まった時に考え始めた建築のスタイル、速く作ることを優先する、それは職人の地位を落とすことで始まっています。そういうことは、もうやめていいのではないかと。ちゃんと作ることを楽しんでモノ作りをするような時代にまた切り替えていいのではないかと思っています。僕は誇大妄想的に大きなことを考えがちなのですが、『職人の復権』というメッセージを込めています」と最後に話してくれました。

カンナ削りに夢中 西多摩の森本悠介さん



息を吐きながらカンナ削りをする森本さん

西多摩支部では、正月にカンナ削り大会の開催を予定しています。12月2日、発案者の森本悠介さんに、仕事帰りに同支部によっていただき、お話をうかがいました。

10年ほど前に大工になったんですが、本格的に興味を持っていたのは5、6年くらい前です。以前勤めていた建築会社では、カンナとかノミとかは全然使わなくて。いわゆるプレカットの新材材ってやつで。でも、自分はそのうちの

じゃない無垢の木で作ってみたいと思って。今手問請をしている地場の工務店ではそういうのやっています。いどんなところに魅力や難しさを感じますか。刃の研ぎとかもそうなんですけど、けっこう台（木の部分）



木槌で入念に調整する

カンナ仲間の輪 大会で広がれば

「全国削ろう会」の第38回全国大会。197人が削りくすの薄さを競い合い交流した。森本さんは、やはりそういうのは凄いいシブい。全国大会があるんです。まだ参加したことはないんですけど、毎年いろんなところでやって。今年は北海道でやったんですけど。（※10月に岩見沢市で開催された

にはカンナ削りが好きな人と知り合いになれたらいいなって。正月の大会で輪が広がっていいかなって思っています。2023年の抱負は？ 来年に限らず毎年のことなんですけど、どんどん腕を上げていきたい。それだけですね、カンナに限らず。仕事でも優しい人がいっぱいいるので単純にできるようなりたいなって思っています。

西多摩支部 カンナ削り大会

【日時】2023年1月4日午前10時から

【会場】西多摩支部会館1階駐車場にて

自分でもカンナを持ってきてくれれば参加できます（25歳以下は組合員でなくても可）。当日はヒノキを使用します。